東 邦 幼 稚 園 だ よ り　　12月終業式号 №11

とうほうの風

～ やさしい心 丈夫なからだ みんな仲よく ひとりだち ～

令和7年（2025年）　12月19日 発行

“聖夜”そして“お正月”に何を願う

～ 「クリスマス」近づく２学期の終業式 ～

【園長：田川隆司】

さる、１２月１５日（月）には、「クリスマス祝会」を開催し、年長組のみなさんによる「聖劇」を保護者に見ていただける場となりましたが、いかがでしたでしょうか。キリスト教を母体とした幼稚園として、この「聖劇」には職員たちも園児たちとともに大きな力を注いでおります。就学前教育という未熟な年齢の子どもたちが、少し高い「舞台」という場所、そして、多くの人から「鑑賞される」ことを前提として、自らの声や動きによって「表現」することの素晴らしい“体験”は、これから成長していく多くの節目できっと大きな“自信”につながってくれると信じております。何より幼稚園の中で年中組、年少組の子どもたちが『年長になったら、あんな（スゴイ）ことができるんだ！』『あんな（カッコいい）年長さんになりたい』と思ってくれることが、教育の現場で行われている『各種行事』の持っている“価値”なんです。

幼稚園での「聖劇」はキリスト教という宗教にかかる行事ですが、今の日本には、仏教（これも宗派が多岐にわたります）や神道をはじめ様々な信仰をお持ちの方がおられます。しかし、日本の文化はこれらを上手く受け入れ、少し前のハロウィンなどは元々の宗教行事からコスプレという日本文化に進化し、バレンタインや〇〇の日という商業ベースに行き渡る創造力はますます活気にあふれているようです。

まもなくやってくるクリスマスにはツリーを飾り、ケーキを買ってプレゼントを…、そして年越しのそばを食べ、お正月にはお雑煮と一緒に「御節（おせち）料理」をいただき、神社にお参りして様々なお願いを行う。今やそこへ、多国籍の文化も重なる中、ＳＮＳ等により日本で生活する我々が知らない、新たな“日本の魅力”が世界中に発信されているのではないでしょうか

さて、私が教育の現場（中学校）に足を踏み入れた４０年ほど前から、世界の中の日本文化を意識する「国際理解教育（多文化共生教育）」が始まったことと並行して「核家族」という言葉がずっと課題になってきました。そこに新たに「少子化」というキーワードが続き、その進行とともに子どもたちを取り巻く環境や家庭の在り方は大きく変化を遂げてきました。際立つのは共働き家庭の増加や地域のつながりの希薄化、そこから発する子育てに対する保護者の不安の増大など、政治家や各自治体が取り組まなければならない課題がどんどん増えていった経緯があります。最後に校長をしていた時には、「地域の子は地域で育てる」を柱として、市の「保幼小中連携事業」をもとに、中学校区に住む子どもたちの１２年の育ちを、学校を舞台にして地域関係者を交え「何を育むことが大切

か」を熱心に協議してきました。人権課題はもちろんのこと、いずれ成人した彼らがその地域で果たす役割を見通して、彼らにとって何が必要なのかを大人が真剣に話し合ってきました。『子どもたちを守ろう』『真剣に叱ろう』そして『親を育てよう、支えよう』『遠慮せずどんどんかかわっていこう』等々…。不登校や行き渋り、対人関係でのコミュニケーション不足など、子どもたちのトラブルの根っこは既に就学前に始まっている可能性が否定できないとの見方から、学校任せで保護者から手が離れたとは思わず、地域の大人たちが“かかわれること”はどんどんかかわっていこうとしてくれました。最近は課題となる子どもの「居場所づくり」も進み、子ども食堂や社会の変化に応じた柔軟な地域支援を進める自治体もどんどん生まれてきました。東邦幼稚園としても、地域の中で安心できる居場所の一つとなるよう子どもを真ん中にし、これからもその務めを果たしていこうと思います。

２０２５年もいよいよ残すところわずかとなりました。私自身、この園に着任して４年目をむかえ、就学前教育の醍醐味を少しずつ学んでおります。保護者の皆様も、「子育て」という複雑な日々の中で、『ああすればよかったかなぁ』『こういう風になれば…』と日々感じておられることでしょう。「子育てに王道無し」とは言われるものの、核家族化がどんどん加速する中で“指標”となるものも少なくなってきています。東邦幼稚園で常にアンテナを高くし、時代の流れの中でも日々工夫しながら行っている活動は、皆様のご理解とご協力があって一歩ずつ前に進んでおりますこと、改めて心より感謝申し上げます。

これから控えている年末年始は、大掃除だったり、パーティーだったり…と、何かと慌ただしく一日が過ぎ去っていく時期です。

しかしながら、今回“体験”した「鏡餅（かがみもち）づくり」の意味やお正月にまつわる様々な日本の“伝統文化”を紐解いてみるのも親子の楽しい時間として大切にしてほしいと願っています。

【育友会主催「ふれあい牧場」に感謝！】

１２月５日（金）には、恒例の「ふれあい牧場」が開催されました。天候にも恵まれ穏やかな日和の中で沢山の動物たちと接することができました。中には手をかまれた子もいましたが、「今年の漢字」にも選ばれた“熊”の問題は多岐にわたります。かわいい動物園だけのものではなく、本来、共存する「動物」への畏敬の念や環境問題との関係性なども、今後成長する中で学んでいって欲しいと願っています。育友会関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

園長の【四方山話（よもやまばなし）】

本文でも少し触れている話題ですが、今は子どもとの距離も近く接する時間も多いとお感じでしょう。しかし、あっという間に…。以下の「こども家庭庁」ウェブサイトも参考にしてみてください。

◎「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの 100 か月の育ちビジョン）」
https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi/hogosha

【ハンドブック】

◎「はじめの 100 か月」みんなの応援アクション（保護者のみなさんへ）

【実写動画】

◎「『こども時間』と『おとな時間』」

◎「見守るってどういうこと？」

◎「親だって『はじめの 100 か月』」

【こども家庭庁ウェブサイト】